

平成 31 年度岡山市市民協働推進モデル事業 最終評価表

実施団体	NPO 法人あかね	協働部署	生活保護・自立支援課、こども福祉課	記入日	令和 2 年 2 月 19 日
------	-----------	------	-------------------	-----	-----------------

1. 事業の目標と達成状況

目標	目標に対する現在の状況と今後の対応	ESD・市民協働推進センターから
事業の周知 (利用者数)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●対象世帯 一定の基準に基づく生活困窮世帯</li> <li>●対象地域 あかね事務所近辺の学区を中心に岡山市内全域</li> <li>●広報 対象学区対象世帯、対象学区公民館・児童館・放課後児童クラブ等に郵送したほか、福祉事務所やケースワーカー等に郵送・説明した。FB 掲載、来所者案内、新聞掲載等も行った。秋頃から公民館や支援団体等で説明会を実施。</li> <li>●受講状況 8 名（来所型 5 名、遠隔・訪問型 3 名）説明会実施以降、利用者数が増加。</li> <li>●課題                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・想定対象世帯の保護者は、学童期からの学習習慣の必要性の認識が低く、利用が伸びていない。社会的ニーズは高いが、保護者のニーズは潜在的。</li> <li>・来所型での学習が最も効果的だが、来所できる世帯には限りがある。遠隔型や訪問型、タブレットの貸与などが必要。</li> </ul> </li> <li>●今後のポイント                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「タブレット学習」という学習支援手法の有効性</li> <li>・スクールソーシャルワーカー、こども相談主事等との連携</li> <li>・周知方法、want のない層へのアプローチ方法</li> </ul> </li> </ul>	<p>【相互理解の原則】</p> <p>岡山市の現状や今後の方針を理解したうえで事業内容や広報の方法等を検討した。また、実施団体の状況などを適宜確認しており、互いに無理のない協働事業に取り組んでいる。</p> <p>【目的共有の原則】</p> <p>事業を開始してからわかったことなどを踏まえ、適宜モデル事業終了後のビジョンを話し合いながら進められている。</p> <p>【対等の原則】</p> <p>役割分担を明確にし、随時必要なコミュニケーションを取ることを意識している。今後も随時お互いの状況を確認しながら対等に進めることを意識する。</p> <p>【自主性及び自立性尊重の原則】</p> <p>意思決定の際にいったん団体に持ち帰り確認するなど、意思決定を強要されることなく事業を実施できている。</p>
利用者の様子 (タブレット学習の成果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ログイン数、学習時間</li> <li>・無理に学習させるのではなく継続してタブレット学習に向かうことを第一に取り組み、徐々に落ち着いて学習ができるようになった利用者もいる。</li> <li>・時間的・学習理解度的な向上は現状ではみられないが、受講者の意欲的な向上は認められる。</li> <li>・数値的变化の提示／意欲の高まりや変化を事例的に紹介する</li> </ul>	<p>【公開の原則】</p> <p>必要な情報は随時、実施団体と協働課の間で確認なされていた。また、団体の FB ページ等で随時イベント情報などが発信された。</p>